

平成28年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	インバウンドへPR発信・イベント事業
事業主体 (連絡先)	梅池高原観光協会 北安曇郡小谷村梅池高原 0261-83-2515 協会長 相沢由章
事業区分	⑥ ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,917,000円 (うち支援金: 1,437,000円)

事業内容

- 梅池タウン誌の発行
インバウンド観光客に対し、アフタースキーの魅力発信のために地域一体のおもてなしを表現するタウン誌を作成。梅池高原内の飲食・おみやげ店舗35店舗を取り上げ、メインターゲットであるインバウンドへのPR・仕掛けに活用。
- 梅池クロールイベントの実施
スキー場オープンから3月27日の期間限定で35の飲食店を巡る企画を実施。のぼり旗を活用し、街中にイベントの一体感を持たせ、昼夜を問わず参加でき、気軽にポイントを集めて、種々の賞品を目指すものとした。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 2017シーズンスキー場入込数20万人:昨年対比86%
2016年が全国的に雪不足で、それでも標高の高さと元来の豪雪地帯であることから他のスキー場よりも雪があったため集客が進んだ昨年と比べてのポイントダウンではあるが、平年並みではあった。
- 2017シーズンスキー場インバウンド入込数17,000人
インバウンドの需要は年々高まっており、今後に関してもここに注力をしていく必要があると感じている。
- 梅池クロールイベント参加人数281人 昨対638%
昨年から大きく参加者数を伸ばすことに成功。街全体のおもてなしを感じてもらえる企画に醸成。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

インバウンド観光客に関しては、次年度予約をしていくケースが多い為、早くからの次年度のPRを実施していく。また泊食分離の傾向が強い為、食の発信は継続して行い次年度の宿泊のPRも合わせて行っていく。エリアで広告を取り、飲食店の持ち合わせでイベントやPRを継続できるような仕組み作りをさらに強めていく必要がある。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(活動写真)



【梅池クロール店内風景】

【目標・ねらい】

- ① スキーシーズンの集客増
- ② インバウンドの集客増
- ③ リピート・滞在の増加促進
- ④ 顧客満足度の向上

※自己評価【B】

【理由】スキー場全体の冷え込みを盛り上げられるようなイベントに育てられるよう、おもてなしの心をもって取り込むことが必要と思われる。